

2025年度ALCS学修行動比較調査Ⅱ（学生実態調査2・4年生版）・全国学生調査結果

作成日：2026/3/10

調査方法：教学比較IRコモンズ主催のALCS学修行動比較調査に2022年度より毎年続き参画。

ただし、2025年度より、文部科学省が実施する全国学生調査とのデータ互換性を高める観点から、本学の調査内容および調査対象学年の見直しを行い、従来1・3年生を対象としていたが対象学年を2・4年生へと変更となった。

本結果は、**ALLCS学修行動比較調査Ⅱに含まれる全国学生調査の結果を含めて**整理し、学生の学修行動の傾向について分析した結果を示している。

調査対象：2年生・4年生

本学回答数・・・187名/218名 回答率・・・85.8%

本学有効回答数・・・174名/218名（2年生 92名/110名、4年生 82名/108名）有効回答率・・・79.8%

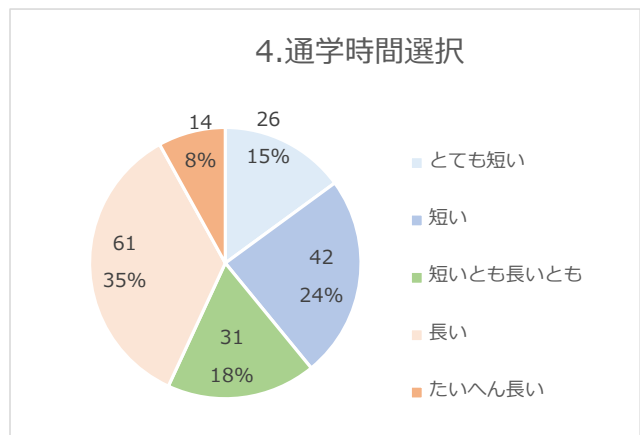
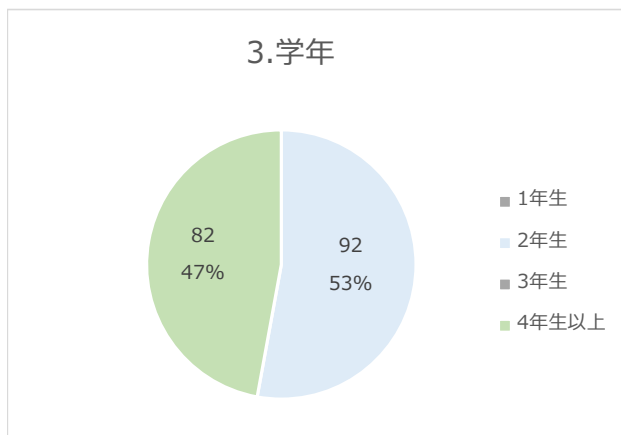
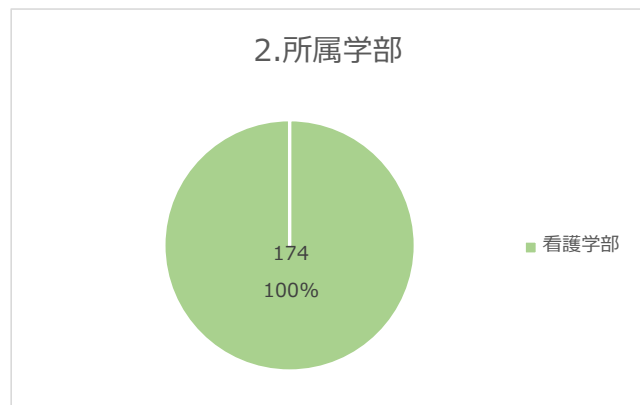
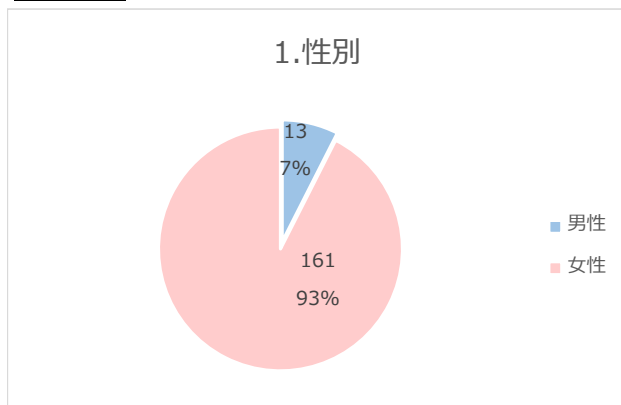
ベンチマーク・・・例年は、ALCS調査に参画している大学（本学学生を含む）の全体データとの比較を行ってきた。

しかし、今年度は諸事情により参加大学全体のデータ提供がなかったため、

昨年度調査（1・3年生）と今年度調査（2・4年生）を用い、同一母集団内での比較を行った。

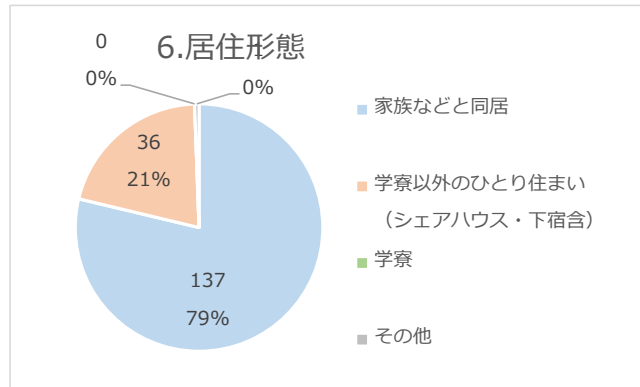
なお、一部の設問については、今年度調査において設問内容の変更が行われたため、昨年度調査との直接的な比較ができないものがある。

調査結果

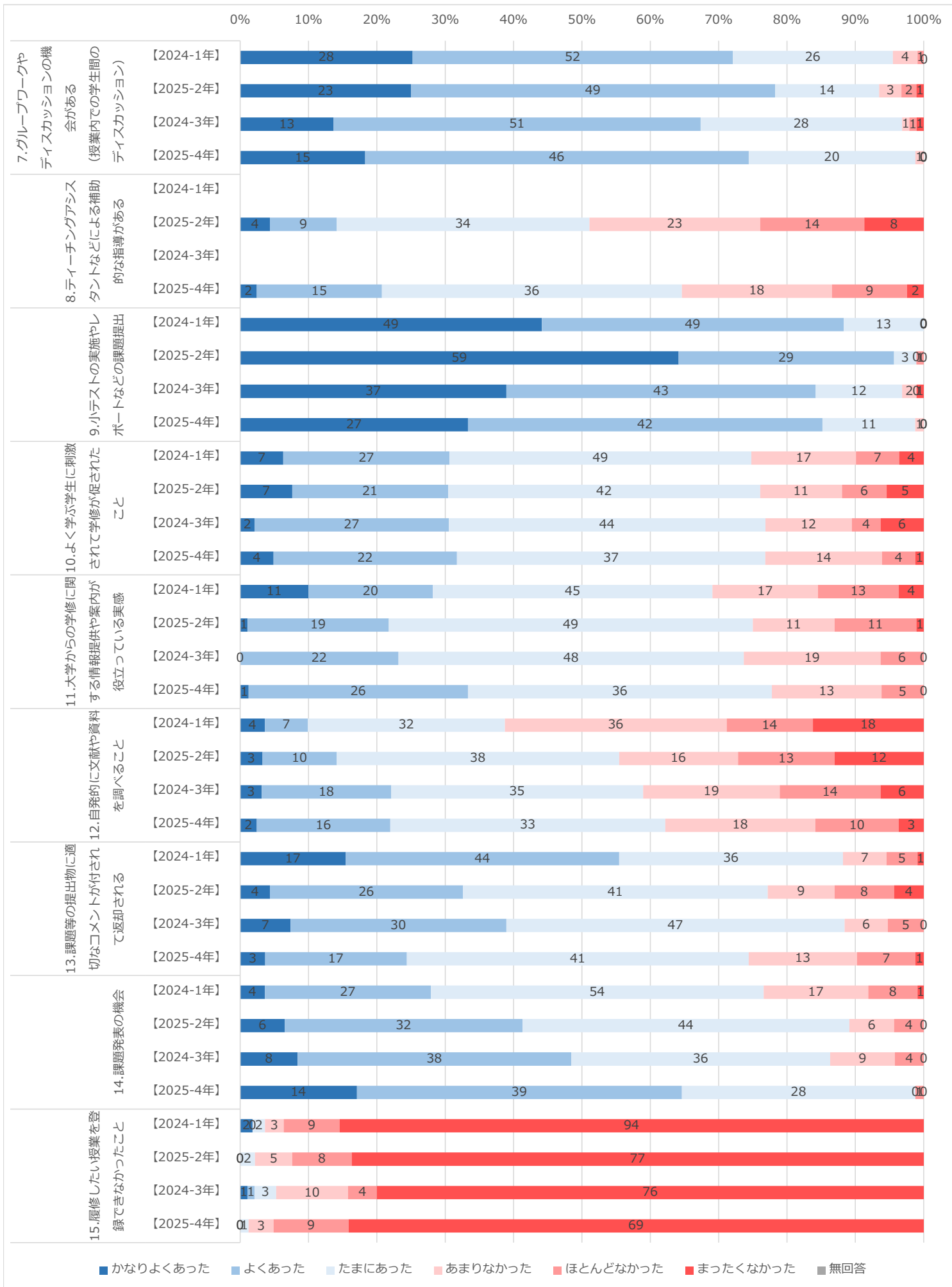


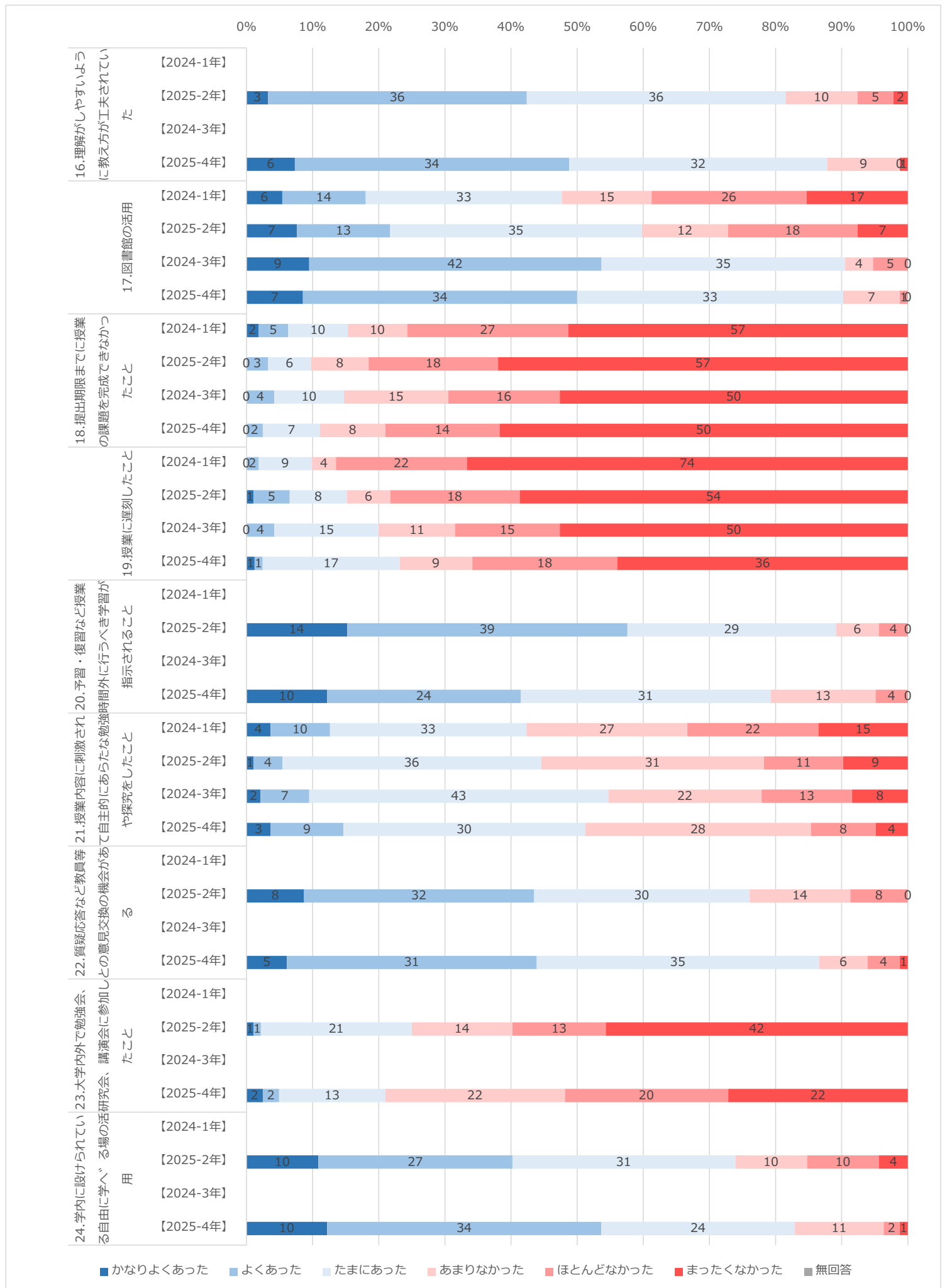
5.一週間の内で授業時間以外に何も勉強していない日数

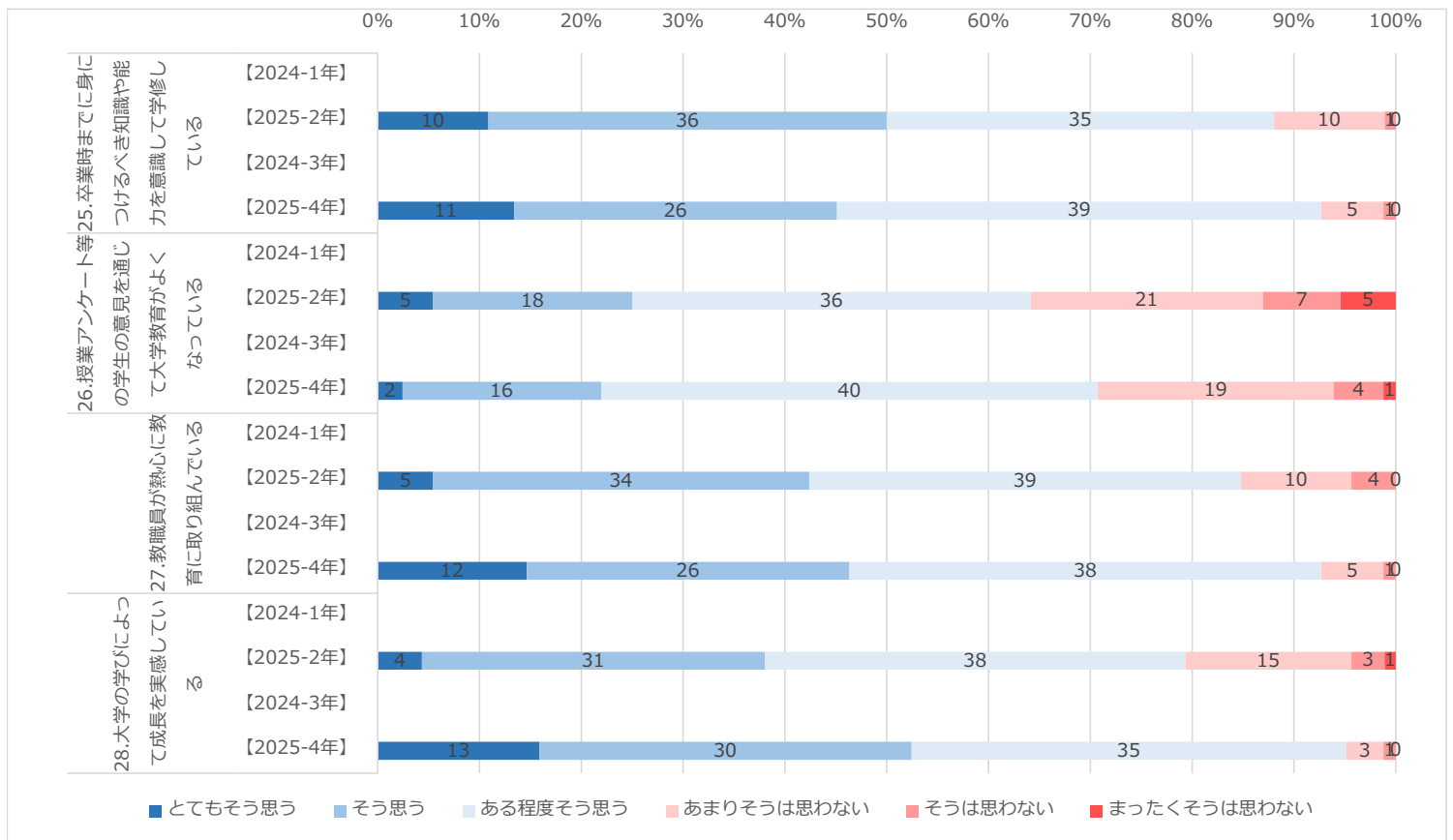
平均 3.02日



設問.7~28 【経験】大学に入ってから受けた授業や学修経験で、次の項目はどのくらいありましたか？







- ・ 設問7（グループワークや学生間ディスカッション）、設問14（課題発表の機会）、設問22（質疑応答など教員等との意見交換）において、4年生は2年生に比べて「かなりよかった」「よかった」とする回答の割合が高い傾向がみられた。高学年になると演習や実習が増えることもあり、能動的な学修経験が増えていることがわかる。
- ・ 設問12（自発的に文献や資料を調べること）および設問21（授業内容に刺激されて自主的に新たな勉強や探究を行ったこと）では、4年生において肯定的な回答が多い。学年が上がるにつれて専門性の高い学修に取り組む機会が増え、学生自身が課題意識を持って学修を進めていることがうかがえる。
- ・ 設問25（卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している）および設問28（大学の学びによって成長を実感している）では、2年生・4年生ともに肯定的な回答が多く、学修に対する意識は概ね高い水準にある。これは、看護学部であるため、将来の職業を見据え、明確な目標を持って学修に取り組む学生が多いことが背景にあると考えられる。加えて4年生では、学修経験の蓄積により、学びと自身の成長や卒業時到達目標との結び付きがより明確になっていることがうかがえる。

設問.29～32【時間】今年度この学期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間はそれぞれどのくらいですか。

29.授業時間以外に、授業に関する勉強をしている時間

2025-2年	平均240分/週	(92名)
2025-4年	平均315分/週	(80名)

30.授業とは直接関係のない勉強をしている時間

2025-2年	平均137分/週	(92名)
2025-4年	平均965分/週	(79名)

31.クラブ・サークル等の課外活動時間

("0時間"の回答を除く)

			全国平均
2024-1年	平均 238分/週	(23名)	平均280分/週
2025-2年	平均 165分/週	(18名)	
2024-3年	平均169分/週	(14名)	平均294分/週
2025-4年	平均 228分/週	(5名)	

32.アルバイトなど有給の仕事をしている時間

("0時間"の回答を除く)

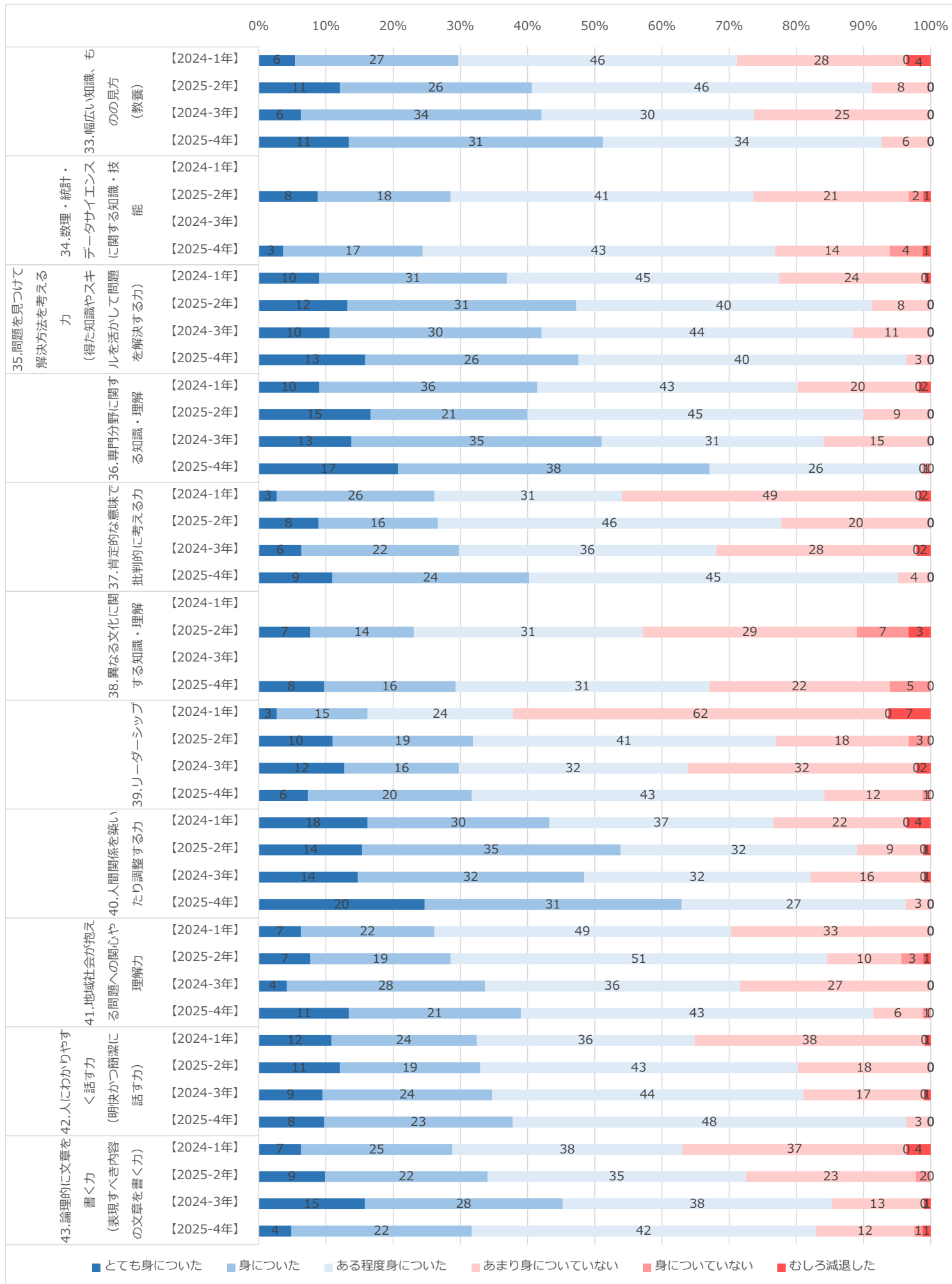
			全国平均
2024-1年	平均962分/週	(102名)	平均808分/週
2025-2年	平均1007分/週	(82名)	
2024-3年	平均809分/週	(74名)	平均840分/週
2025-4年	平均680分/週	(65名)	

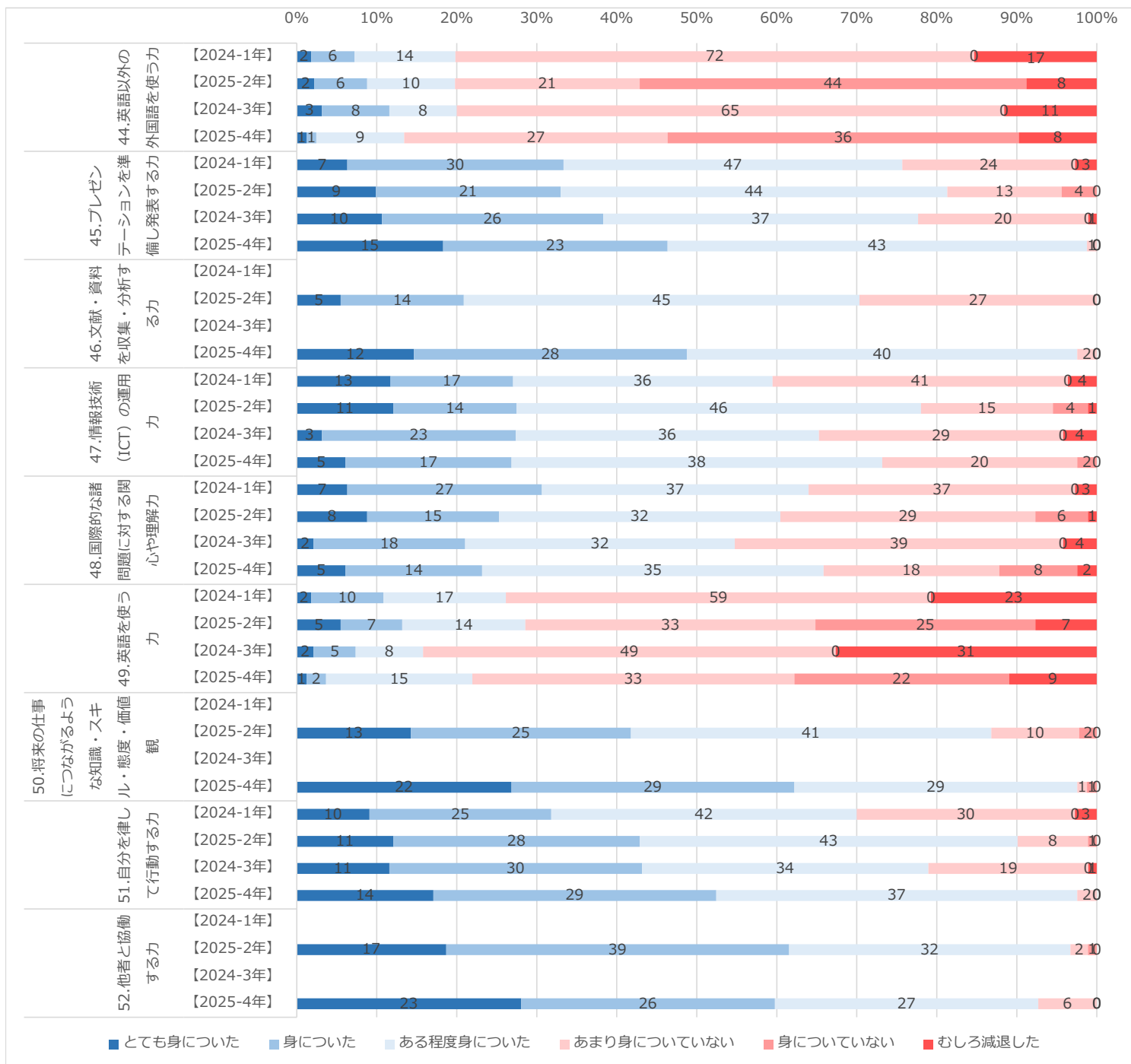
・設問29（授業時間以外の授業に関する学修時間）設問30（授業とは直接関係のない勉強をしている時間）では、2年生より4年生の方が増えており、特に授業と直接関係のない学修時間が大幅に増えている。4年生は、国家試験対策や進路準備等の自主的学修が拡大していることがうかがえる。

・設問31（クラブ・サークル等の課外活動時間）では、4年生：平均228分/週（n=5）と、回答者数が少なく、学年が上がるにつれて課外活動への参加が限定的になる傾向がみられる。

・設問32（アルバイトなど有給の仕事をしている時間）は、学年が上がるほど減少しており、実習・就職活動・国家試験対策の比重が高まる中で、就労時間が減っていると考えられる。

設問.33~52 【成長】大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身についたと思いますか。

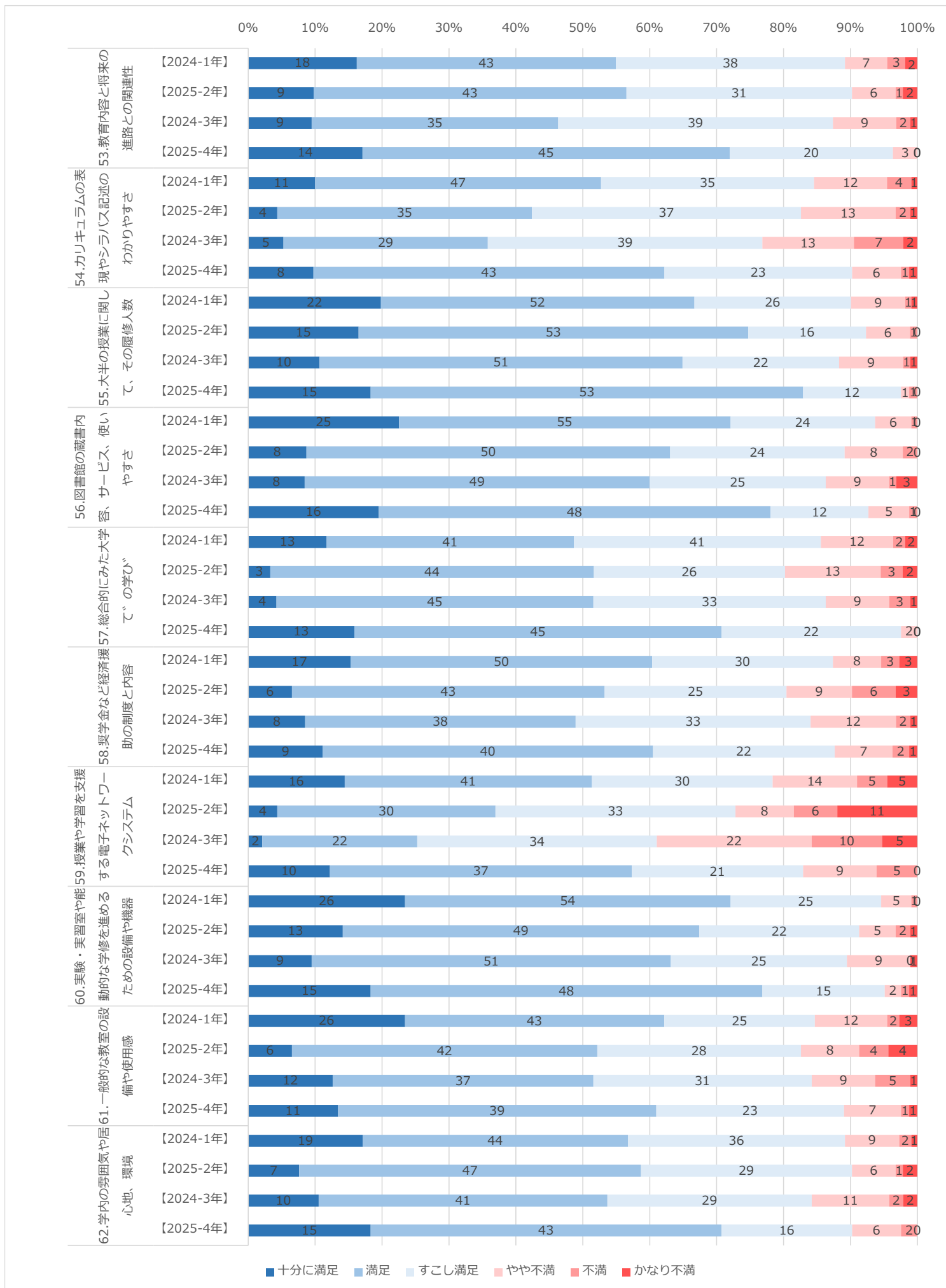


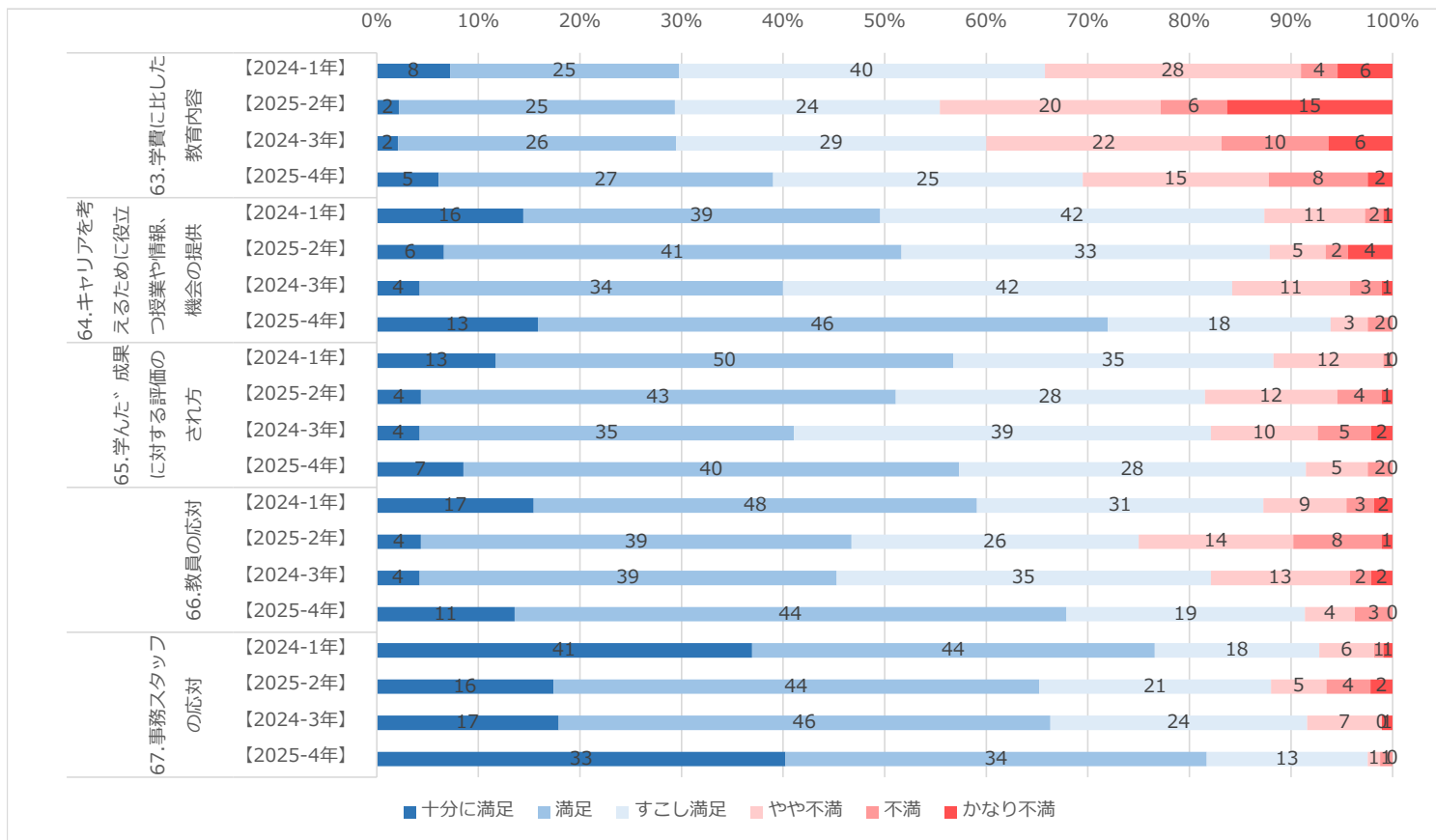


・以下の能力については、2年生の段階ですでに「身についた」とする回答が多く、低年次から一定水準に到達していると考えられる（設問35：問題を見つけて解決方法を考える力、設問36：専門分野に関する知識・理解、設問40：人間関係を築いたり調整する力、設問50：将来の仕事につながる知識・スキル・態度・価値観、設問51：自分を律して行動する力、設問52：他者と協働する力）。これらの能力は、看護学部という専門職養成を目的とした学部特性から、入学時点から将来の職業を明確に意識し、目的意識をもって学修に取り組む学生が多いことにより、知識のみならず態度・価値観を含めた基礎的な能力に意識が高いものと考えられる。

・以下の能力については、2年生においても一定の到達はみられるものの、4年生では肯定的な回答がより高く、学年進行に伴う伸長がより明確に確認できる（設問42：人にわかりやすく話す力、設問43：論理的に文章を書く力、設問46：文献・資料を収集・分析する力）。専門知識を基盤として、思考・表現・分析を統合的に用いる能力であり、演習・実習、卒業論文作成等の学修経験を重ねることで、4年次段階においてより実践的な力として定着している様子がうかがえる。

設問.58~67 【満足】 本学の教育や設備、環境、制度に関して次の各点についてどの程度満足していますか。





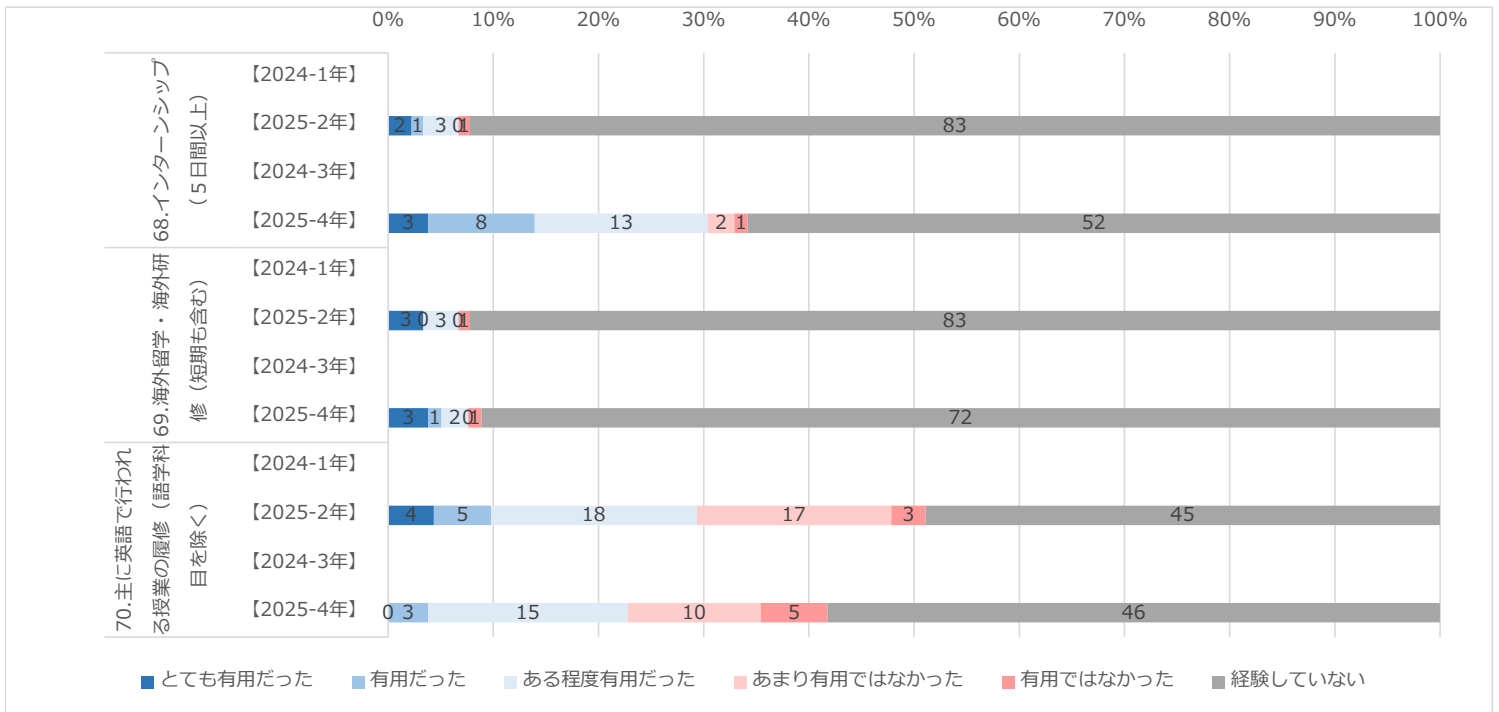
・【満足】に関する設問（設問53～67）は、全体を通して、2年生・4年生ともに肯定的な回答が多く、本学の教育内容、学修環境、支援体制は総じて良好に受け止められている。特定の項目に課題はみられるものの、全体的には安定した満足度が確保されているといえる。

・設問53（教育内容と将来の進路との関連性）および設問64（キャリアを考えるために役立つ授業や情報、機会の提供）では、2年生・4年生ともに肯定的な回答が多く、本学の教育が将来の職業や進路を見据えた学びとして概ね評価されている。特に4年生では、進路意識の具体化を背景に、学修の意義をより実感している傾向がみられる。

・設問56（図書館）、設問60（実験・実習室）、設問61（教室設備）、設問62（学内環境）については、両学年とも比較的高い満足度が示され、学修環境の基盤は概ね良好と受け止められている。一方で、設問59（授業や学習を支援する電子ネットワークシステム）については、一定数のネガティブな回答もみられ、使いやすさや運用面において改善の余地があることが示唆される。

・設問63（学費に比した教育内容）は、他の設問と比べて否定的な回答が相対的に多い。教育内容への評価とは別に、学費などの経済的負担感や学生個々の受け止め方の違いが満足度に影響している可能性が考えられる。

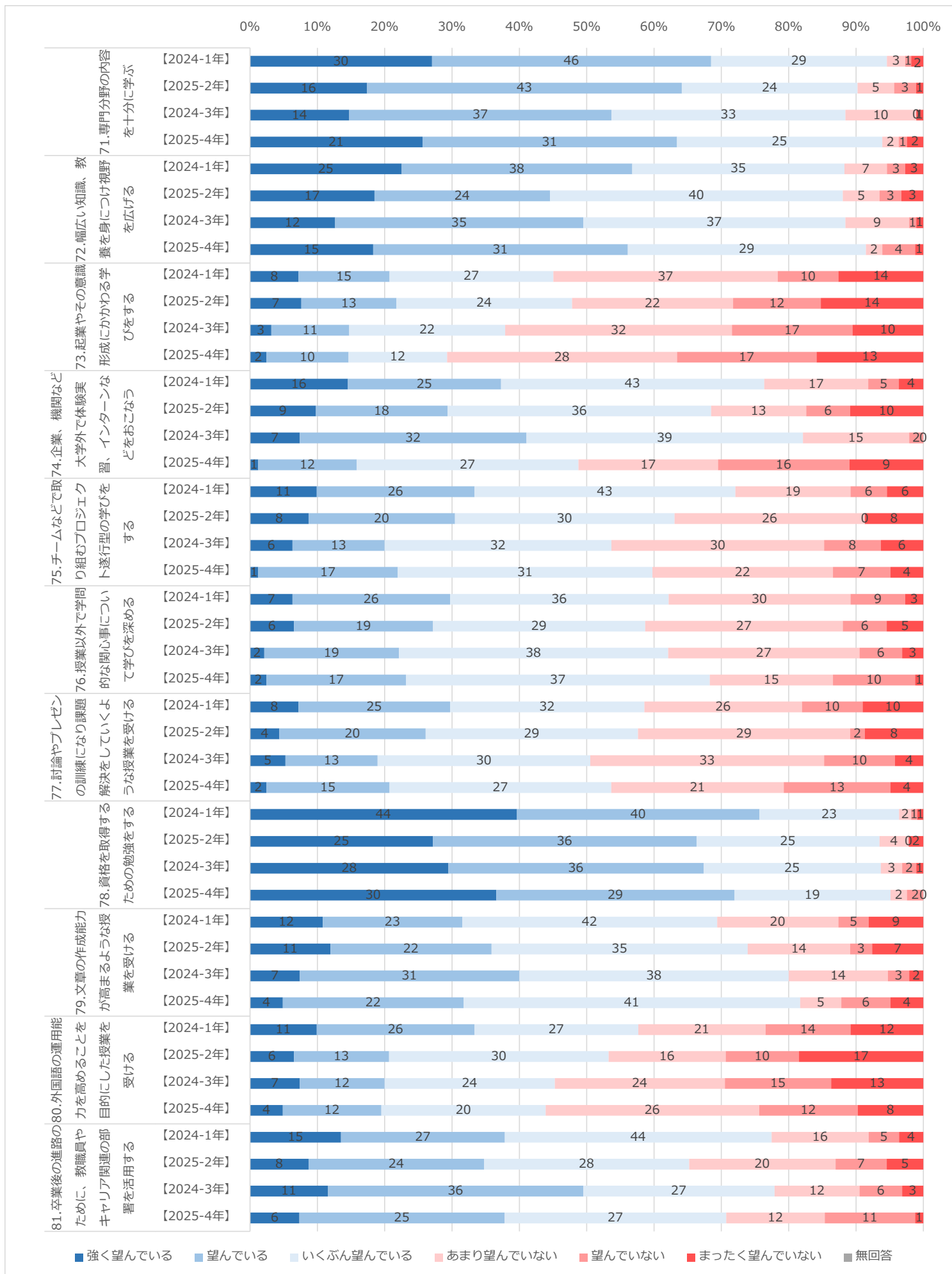
設問68～70.【有用性】大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。



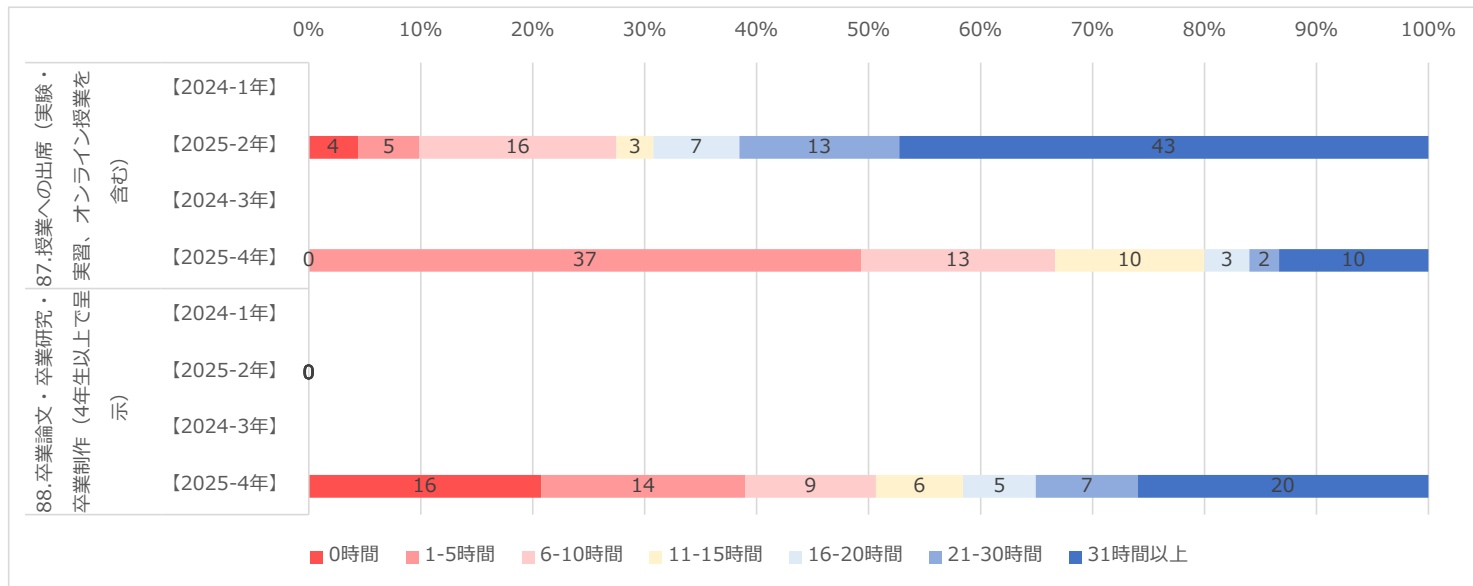
・設問68（インターンシップ）、設問69（海外留学・研修）は「経験していない」の比率が高いが、参加者の有用性評価自体は高かった。

・設問70（主に英語で行われる授業（語学科目を除く））は本学では開講していないため「経験していない」とする回答が多いが、経験者は英語科目を念頭に回答していると考えられ、その中でも有用性評価は相対的に低めである。

設問.71~86 【希望】この先、大学在学中につきのような経験をどの程度望んでいますか。



設問.87～88 【時間】今年度この学期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間はそれぞれどのくらいですか。



※設問88は、4年生のみ回答

・設問33より、4年生は自主学習時間が比較的長い一方、授業の履修コマ数が少ないため、設問87（授業関連時間）は相対的に少なくなる傾向が見られる。